

やさしさを行動に

12月9日は「障害者の日」



十二月九日は「障害者の日」です。障害を持つ人の問題は、単に障害を持つ人だけでなく、わたしたち一人ひとりが、自分自身の問題として考える必要があります。また、幅広い社会的な連帯意識を持って解決していくことが大切です。

障害を持つ人に対する理解と関心を深め、みんなが平等に暮らせる社会づくりをするためにはどうしたらよいか。「障害者の日」を機会に、障害者を持つ人と接するとき、どのような点に注意すればよいのか、改めて考えてみましょう。

障害を持つ人への

エチケット

わたしたちの社会は、いろいろな人間の集まりであり、人はみなお互いに助け合って生きています。子供が手紙を出そうとして、ポストの前にいますが、背が低いのでポストの受け口まで手が届きません。そんなとき、大人がそばにいれば、ごく自然に手を貸して手紙が入られるようにしてあげてください。

これと同じように、障害者の場合も自然な態度で接しましょう。障害者とあまり接したことのない人のなかには、障害者に対して、一般の人とは全く違っているという偏見や誤解を持ち、同情や哀れみの気持ちで接する人が少なくありません。わたしたちの社会には、背の高い人や低い人、速く走ることでできる人やできない人などがあります。これと同じように、障害者を持っているという事は、身長や運動能

力の違い、個人差の一つなのです。ですから、手助けするときも「障害者だからでなく、困っているから手助けを——これが障害者に対するエチケットの基本です。障害者が困っているのを見かけたら、その人が何をしてほしいかをよく聞き、必要なときは快くお手伝いしましょう。

手足の不自由な人に対して

①街中で車いすの人が困っているら、まず、声をかけましょう。一人で手伝うのが無理だったら、通りがかりの人に協力を求めます。②階段で車いすの上り下りを手伝うには、二、三人がかりで、呼吸を合わせて静かに持ち上げます。車いすの人が落ちないように、後ろのときは前向き、下るときは後ろ

向きにします。③足の悪い人には、松葉杖の人、義足(外から見えないこともある)の人など、いろいろの状態の人がいます。乗り物などで、足の不自由な人を見かけたらシルバースhirtでなくても席を譲りましょう。

④雨の日は松葉杖の人が一番困る日です。傘はさせないし、足元は滑る危険があります。隣りに松葉杖の人がいたら、傘を差し出すなどして守ってあげましょう。⑤街中で松葉杖の人が困るのが、階段や段差です。腕を貸せば上れる人、それではかえって上れない人などいろいろです。どうしたらよいか、よく聞いてお手伝いしてください。

⑥手足の不自由な人を街で見かけても、すぐ手を貸す必要はありません。困っているときや、援助を求められたときに、はじめて手を貸してあげてください。手足の不自由な人たちは、人に迷惑をかけるのをとても心苦しく思うのです。それだけにこまやかな心遣いが必要です。

12月9日の「障害者の日」とは

わが国では、国際障害者年だった昨年、十二月九日を「障害者の日」として宣言しました。

十二月九日は、一九七五年(昭和五十年)に国際連合で「障害者の権利宣言」が採択された日です。

「障害者の権利宣言」は障害者の基本的な権利と障害者問題を示したものです。国際連合では、設立当初から障害者問題に関心をもち、さまざまな決議や宣言を行っていました。その集大成が「障害者の権利宣言」です。

「障害者の日」は障害者問題についてわたしたちの理解と認識をさらに深め、障害者の福祉の増進を図ろうとするものです。

この日を契機に、わたしたち一人ひとりが障害者問題を改めて考えなおし、社会的な連帯意識の下に「障害者の日」にふさわしい活動を押し進めたいものです。